

	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4
	<p>とおりにぬけがた 通り抜け型 直接地上に出られる階のみ適応可能</p>	<p>ちゅうしんがた 中心型</p>	<p>かいろうがた 回廊型</p>	<p>てんざいがた 点在型</p>
形態例	<p>通り抜けの際に活動の様子が目にはいる。</p> <p>イベントや活動などをフリースペースに延長して行う</p> <p>機能の関係性を示す。 動線 フリースペース さまざまな機能</p>	<p>階段の上り降りの際に活動の様子が目にはいる。</p> <p>イベントや活動などをフリースペースに延長して行う</p> <p>機能の関係性を示す。 動線 フリースペース さまざまな機能</p>	<p>おちついた場をつくる。 (中高生の勉強スペースなど)</p> <p>テーブル等を置くことができる くつろぐことのできる空間</p> <p>大きく確保にぎやかな場をつくる。</p> <p>機能の関係性を示す。 動線 フリースペース さまざまな機能</p>	<p>フリースペースのエリア化 人のたまり場をつくる</p> <p>活動を延長して行うことができる</p> <p>機能の関係性を示す。 動線 フリースペース さまざまな機能</p>
特徴	<p>通り抜けの動線とフリースペースを兼ねる案</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の反対側につながる大きな通りとすることにより見通しが良く開放的な場づくりとすることができる。 施設利用の有無に限らない、幅広い活用が期待できる。 (通り道としての利用も可能) 	<p>階段とからめた大きな吹き抜けの中心とその周りにフリースペースを設ける案</p> <ul style="list-style-type: none"> 上階とつながる吹き抜けにより見通しがよく開放的な場づくりとすることができる。 吹き抜けに面してフリースペースを設けることで上階から活動の状況が見えやすくなり、イベント等への活動促進が期待できる。 階段の上り降りの際も活動に触れやすくなる。 	<p>中心に諸室を配置し、その周りに回廊型のフリースペースを設ける案</p> <ul style="list-style-type: none"> 諸室との連携なども踏まえながら、フリースペースの各空間ごとに家具配置や設え等で雰囲気を変え、利用用途に沿った場づくりとすることができる。 諸室とフリースペースを一体として利用可能とすることで、より幅広い活動を促す。 	<p>諸室の配置を不均一とし、その間でできた大小さまざまなフリースペースを点在して設ける案</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用目的によって選ぶことのできる場づくりとすることができる。 フリースペースが点在していることにより、建物全体がゆったりとつながっているような雰囲気となる。 諸室とフリースペースを一体として利用可能とすることで、より幅広い活動を促す。
メリット・デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 屋内と屋外のつながりのある動線をつくることができる。 諸室とフリースペースを一体として利用可能とすることで、より幅広い活動を促す。フロア全体を活かした開放的なイベント等の実施が可能。 廊下とフリースペースを兼ねているため動線の妨げとならないよう家具の配置等の配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 各諸室を利用するさまざまな方が中心に集うことから多様な交流を生むことができる。 吹き抜けを設けることで、音の響き等が懸念される。 (良くも悪くも他の影響を受けやすい) 	<ul style="list-style-type: none"> 外壁をガラス張り等とすることで屋内の雰囲気が外部からも感じられる。 1階であると気軽に立ち寄りやすい。 諸室とフリースペースを一体として利用可能とすることで、より幅広い活動を促す。 外壁と諸室の間に一定のスペースを挟むことで諸室の熱不可を下げるることができる。 (空調効率が上がる) 廊下とフリースペースを兼ねているため動線の妨げとならないよう家具の配置等の配慮が必要。 住宅エリアに面した空間の利用については、家具配置等も含め近隣住民への配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 外壁をガラス張り等とすることで屋内の雰囲気が外部からも感じられる。 1階であると気軽に立ち寄りやすい。 諸室とフリースペースを一体として利用可能とすることで、より幅広い活動を促す。 外壁と諸室の間に一定のスペースを挟むことで諸室の熱不可を下げるることができる。 (空調効率が上がる) 廊下とフリースペースを兼ねているため動線の妨げとならないよう家具の配置等の配慮が必要。 住宅エリアに面した空間の利用については、家具配置等も含め近隣住民への配慮が必要。 比較的廊下の多い配置計画となる。